教えて！市立病院 vol.39

市立病院総務課経営企画室☎ 22-2450

今回は、第二診療部長兼心臓血管外科長の佐藤洋一医師にお話を聞いてみましょう。

Q 心臓血管外科で行っている心臓の手術について教えてください。

A ①加齢や感染などが原因で、心臓の弁が硬く狭くなったり、弁が壊れて血液が逆流することで心臓に負担がかかる「心臓弁膜症」に対し、人工弁に交換したり自分の弁を修復する手術 ②心臓に負担がかかることで心臓が不規則に動き、脳梗塞や心不全を起こす可能性がある「不整脈（心房細動）」に対し、正常の心臓の動きに戻す手術 ③心臓の筋肉に栄養や酸素を送る冠動脈が詰まったり、狭くなって心臓の筋肉に十分に血液が流れない「心筋梗塞」や「狭心症」に対して冠動脈バイパスを行って血流を改善する手術 ④生まれつき心臓の壁に孔が開いているため心臓に負担がかかる「中隔欠損症」に対し、孔を閉鎖する手術などを行っています。

Q 心臓手術は何歳くらいまで可能ですか？また、手術した後の経過はどうでしょうか？

A 患者さんの状態や手術の内容によって違いますが、80 歳代の前半であれば十分手術は可能であり、実際にこの年代の手術も多く行っています。80 歳代後半でも全身の状態がよければ可能です。心臓手術後の経過は、通常、手術直後や翌日（術後 1 日）の朝に人工呼吸の管を抜いて、術後 2 ～ 3 日から食事を開始、術後 4 ～ 5 日で歩行開始、術後 10 ～ 14 日で退院されることが多いです。心臓の手術は、悪いところを治して正常の状態に戻す手術ですので、手術前より確実に心臓の機能は改善します。 3 月 26 日㈯の市民公開セミナーで詳細を発表します。